新年を迎えて

しずない農業協同組合 代表理事組合長 西村 和夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、御家族ともどもご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より当組合の事業運営に対し、ご協力とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

日本を取り巻く農業情勢においては、昨年4月に日米両国が新たな貿易協定についての交渉が開始され、12月の国会では賛成多数で可決されました。貿易協定は今年1月1日には発効され、米国産牛肉の輸入関税が38．5％から最終的には9％に下がることとなり、輸入牛肉と競合するであろう、国内肉牛肥育農家への影響を危惧しております。また、米中の貿易交渉は、米国の中国からの輸入品に上乗せしている関税の一部引き下げを発表し、昨年から応酬の続く関税措置はやや緩和されることとなりますが、貿易を巡る対立が緩和の方向に向かうかは不透明のようです。併せて、消費税増税についても営農資材の高騰や、軽種馬の市場価格や農産物の販売価格に大きな影響を及ぼすものであって今後の情勢に注視しなければならないと考えております。

昨年は全国的に台風や、低気圧などの自然災害が頻発する年でありましたが、日高地方においては幸いにも一昨年のような大きな災害はなく、安定した穏やかな気候が続き、各作目とも豊穣の秋を迎えることができたと考えています。

昨年の農業作物の状況としまして、水稲は、作況指数が北海道で104の「やや良」、日高管内は106の「良」でありました。春先は概ね天候に恵まれ、それ以降では日照不足や、やや気温の低い日もありましたが、タンパク質も含め高品質な米を収穫することが出来ました。また、7月1日には静内稲作振興会での良質な馬糞堆肥を使用したお米の栽培環境と良食味米技術を活かし創られた、純米吟醸酒「海王丸」がお披露目され、多くの町民の皆様にご愛飲頂いております。

青果では、一昨年は低温・日照不足に悩まされましたが、昨年は好天に恵まれ、生育は良好に推移し、ミニトマト「太陽の瞳」の収量は一昨年を上回る結果となりましたが、販売単価が安値で推移したため、前年比較でそれほど取扱金額が伸びませんでしたが、9億1300万円と昨年に引き続き9億円を突破することができ、青果全体では10億円を超える実績となりました。

また本年も1組の新規就農者の参入が予定されており、本年こそはミニトマト部会が目標として掲げる10億円を目指して参ります。

酪農については、乳価は100円台と高い水準で推移し、販売金額は一昨年同様の3億5800万円の取扱い実績でした。また、晴天が続き牧草が適期に刈り取れていることから今年度の乳量にも期待しているところです。

黒毛和牛についてはホクレン南北海道市場の平均購買価格が去勢で82万7000円、メスで72万円と高値で推移してきましたが、12月市場で大きな下落があったことから、今年度の市場価格について注視するところです。年間の販売金額は6億4400万円と4年連続の6億円の突破となる状況です。また、静内産去勢素牛が市場の月別のトップセールスを2回も記録するなど、市場の評価も高く、今年度は種雄牛の候補が静内から出ておりますので、併せて期待したいところです。

酪農、黒毛和牛は明るい話ばかりではなく、近隣地区では疫病によって多くの牛が淘汰となっており、飼養、衛生管理の徹底が叫ばれているところです。静内地区においては今年度が国による5年に1回の牛の疫病全頭検査の年となっております。

基幹産業である軽種馬については、昨年の市場販売頭数及び販売金額が、397頭、34億7530万円で昨年より54頭、5839万円の増加となりましたが、平均販売価格は120万円減少の875万4000円となりました。北海道市場では昨年度はセプテン